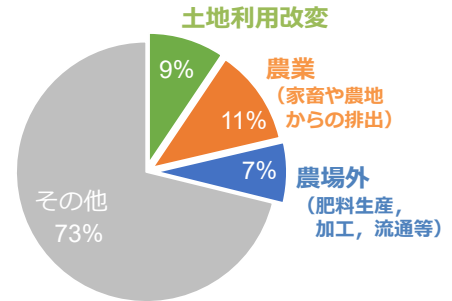


環境に優しい「代替肉」の利用は広まるか ～大豆ミートバーガーへの消費者選好の分析～

一般財団法人電力中央研究所 木村 幸*、田中 拓朗

1. 背景と目的

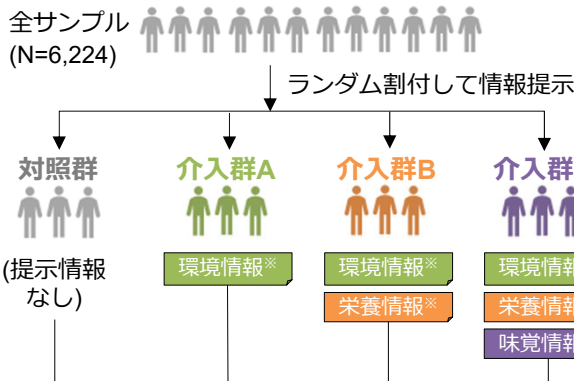
- 食システムに起因する温室効果ガス(GHG)排出量は、世界のGHG排出総量の3分の1を占める
- カーボンニュートラルには、食システムの脱炭素化が不可欠
- 食の脱炭素化に向けて、肉消費削減や環境負荷の低い代替肉の利用など、**食行動変容**が注目
- 本発表では、近年日本でも販売が広がっている大豆ミートバーガーへの消費者選好や選択を促す要因を明らかにする



世界のGHG排出量に占める割合 (IPCC 2019)

2. 方法

- 選択実験と無作為化比較実験(RCT)を組合せ
- 対象：マクロミル消費者モニタ (6224名)
- 実施時期：2023年1月31日～2月1日



ハンバーガーの選択実験 (コンジョイント分析)

以下の質問を8回繰り返す：
「ハンバーガー店で次の3種類のハンバーガーが売られていたら、あなたはどれを購入しますか？」

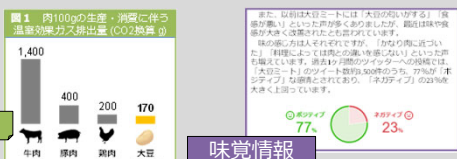
<選択肢の属性と水準>

- 肉の種類：牛肉・大豆ミート
- 野菜の量：多め・少なめ
- 価格：300・500・700・900円

| | | | |
|------------------|------|-------------|-----------|
| ① 牛肉の野菜ハンバーガー | ¥300 | 肉の種類: 牛肉 | 野菜の量: 多め |
| ② 大豆ミートのハンバーガー | ¥500 | 肉の種類: 大豆ミート | 野菜の量: 少なめ |
| ③ 大豆ミートの野菜ハンバーガー | ¥700 | 肉の種類: 大豆ミート | 野菜の量: 多め |
| ④ どれも購入しない | | | |

※提示した情報

図と200～300字の簡単な説明で構成



環境情報

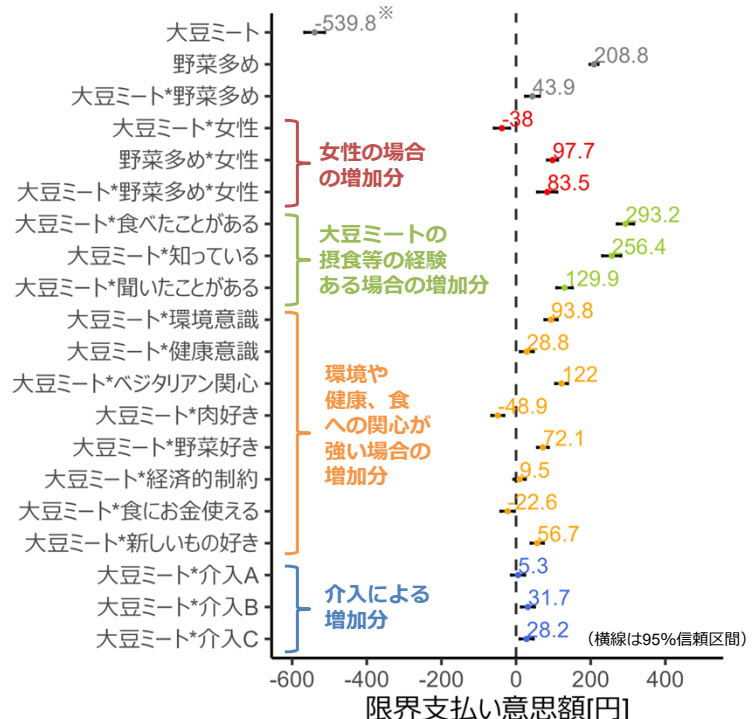
味覚情報

栄養情報



3. 結果と結論

- 条件付きロジットモデルを用いて支払い意思額 (WTP: Willingness-to-Pay)を推計
- 大豆ミートのWTPは回答者平均で約-230円
- 以下の場合は大豆ミートへのWTPが増加。
全てを満たす消費者層では300円程度まで増加
□ 女性に、野菜と組み合わせて提示
□ 大豆ミートを食べたことがある
□ 環境意識が高い
- 環境等の情報提供によるWTPは30円程度
- 結論：大豆ミート利用を促すには、大豆ミートを試す機会の増加、野菜と組合せた健康食としての訴求、環境面等の基本的情報提供が必要



※男性で、大豆ミートを聞いたことがなく、環境・健康・食等への関心が低い人が、情報提示 (介入) がなかった場合に、ハンバーガーを購入しない場合の効用を0に基準化。例えば「大豆ミート：-539.8円」は、これらに該当する人の、大豆ミート・野菜少なめのハンバーガーに対するWTPを示す。

※本調査は環境省委託事業 (令和4年度民生部門における脱炭素化対策・施策検討委託業務) の一環で実施しました。